

持続可能な教育を目指して

教育長 重松 司郎

私たちを取り巻く社会は今、少子高齢化やグローバル化、都市化・過疎化の進行、家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化により、地域社会等のつながりの希薄化や地域住民の支え合いによるセーフティネット機能の低下などが課題としてあげられています。また情報技術の発展により、各種の情報機器が子供の間でも広く使われるようになり、人間関係のあり方が変化している現状があります。

このような状況にあって、未来を担う子供たちに対する教育は、学校を中心として地域社会並びに家庭がともに「子供が社会の変化を前向きに受け止めて、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成すること」が求められています。

そこで、これからの時代に求められる教育を実現するためには「社会に開かれた教育課程」という理念の下、それぞれの学校において必要な学習をどのように学び、どのような資質・能力を身につけられるようにするのかを「カリキュラム・マネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」を通して明確にしながら、社会との連携及び協働により実践していかなければなりません。あわせて、幼児期の教育から小・中学校教育を経て、高等学校以後の教育や生涯にわたる学習へとつながりを見通した教育体系を図ることも大切です。そのために、幼児期の教育については、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、幼児が自ら意欲をもって環境と関わることによりつくり出される具体的な活動を通して、その目標の達成を図らなければなりません。また、小・中学校においては、一人ひとりの児童生徒が自らのよさや可能性を認識し、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き持続可能な社会の創り手となることが求められています。

よって、幼児期の教育にあっては、5歳児修了までに育ててほしい姿を明確にし、様々な体験活動を通して心豊かな幼児を育てること、小・中学校においては、言語能力の確実な育成、道徳教育や外国語教育の充実を図ることが重要です。高等学校においては、キャリア教育を通して将来への展望がしっかり持てることが大切になります。また、特別支援教育については、一人ひとりに応じた指導の充実と、自立と社会参加の推進をしなければなりません。

そのためには、これらの教育を実践する学校がその趣旨を理解し、状況に応じた変化に対応できることが大切になります。また、教育委員会としても、学校の環境整備や教職員の研修の充実を図るなどの支援を適切に行ってまいります。このように、今後は、教育委員会と学校そして家庭並びに地域社会が一体となって、子供たちの教育に取り組むことで、「夢はぐくむ教育のまち西宮」を目標に教育の振興に取り組んでまいります。